

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成 26 年度第 5 回情報セキュリティ研究講習会運営委員会議事記録

- I. 日 時：平成 27 年 1 月 23 日(木) 11:15 から 13:00
II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局会議室
III. 参加者：浜委員長、島崎委員、服部委員、西松委員、岡部委員 (Skype)
(事務局) 井端事務局長、野本 (記)

IV. 検討事項

1. 今年度及び来年度の講習会について委員の意見
- ・ 今年度の人的運営では、教員委員の追加はできなかった。講習会では外部講師を招き、評価があったように考える。
 - ・ 開催日数の検討では 2 日間で実施したが、コースレベルの設定と過去の資料の提示については継続課題になっている。
 - ・ 交流の場が求められているのではないか。
 - ・ 次年度に向けて、会場校は要件により内容の制約があるので早めに決めたい。ソフトウェアライセンスの確認も必要となる。
 - ・ レベル別のコースがあっても良いか。基礎とアドバンスの設定などが考えられる。
 - ・ 講習会の説明資料として、全体のコースデザインが見えるものの提示が必要ではないか。
 - ・ セキュリティの意識を高める取組みとしての講習会。
 - ・ やってるやってないのベンチマークが必要ではないか。セキュリティ対策をやっていないところに直接的な呼びかけで個別に参加を促してはどうか。環境調査の結果などから不足の大学に呼びかけてはどうか。
 - ・ 総合演習は評価があったので継続したい。時間不足、ゴールに到達できなかった、内容や到達点が十分理解できなかったなどの改善を図っていききたい。
 - ・ マネジメントコースの目的の一つは、セキュリティ意識を高めることでもある。
 - ・ テクニカルコースで参加者同士がコミュニケーションを取る時間を設定してはどうか。
 - ・ グループ分けの人数は、一人でまとめてしまうなどの課題がみられた。
 - ・ テクニカルコースのレベル設定は、一部分を外部講師を招きレベルアップを図るか。
 - ・ 受講を検討する際に大学が選べるように、どこがねらいなのかマップやフレームでの提示が必要ではないか。
 - ・ セキュリティ対策には機械、製品、サービスが必要となることから、予算の確保が求められる。有効に活用されるかなど費用対効果の提示やガバナンスへの提言や説得が課題。
 - ・ 開催時期は、8 月の 20 日ごろで、2 日間での実施が考えられる。参加者の例では、11 月ごろにセンター長に内示され、4 月からの対応に向けて勉強している現状がある。
 - ・ 来年度から「情報セキュリティ対策問題研究会(仮)」を発足させ、6, 7 名で構成することを考えており、そこでのものを講習会の素材にしてはどうか。
 - ・ 情報共有のところは、範囲を松竹梅などのスタンスでグループ化した中で進めることではどうか。リアルタイムに知りたい内容、アーカイブとして知りたい内容にわかれる。地域の大学の現状の中で、意識変革させて情報共有のスキームとして提案できないか。
 - ・ JPSERT などに情報を出している大学は情報の入手ができているのか。例えば、大学から情報が発信されるようにするため、拠点校を設定し、インシデント情報の共有をセンター中心に集めて進められる仕組みのフローが考えられないか。
 - ・ 来年度に向け、運営委員を増やすことも考えたい。

V. 次回のスケジュール

- ・ 委員会の開催は次年度とする。